

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0970200721		
法人名	社会福祉法人東徳会		
事業所名	グループホームほたる		
所在地	栃木県足利市稲岡町字和見1064 (電話) 0284-90-2212		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年11月6日	評価確定日	平成20年1月15日

【情報提供票より】(平成19年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年5月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	6人	常勤4人, 非常勤2人, 常勤換算4.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	14,400円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代-実費 ・おむつ代-実費 ・レク交通費-実費 ・医療費-実費 ・日用品、共益費-400円/1日 ・水道光熱費-600円/1日 	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	400円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	食事代に含む
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年10月15日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名	
要介護1		2名	要介護2		名	
要介護3		3名	要介護4		2名	
要介護5		1名	要支援2		名	
年齢	平均	80.9歳	最低	72歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐野医師会病院、源田歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは足利市の西、佐野市との境界に位置する。静かで季節の移ろいを五感のすべてで感じることができる自然豊かな山の麓に位置している。敷地内ではミニチュアホースや犬、猫が飼われており、地域の方が動物に会いにくることもある。平成14年5月に同一法人の特別養護老人ホームと同じ敷地内に設立され、法人全体の理念に「長命から長寿へ」を掲げ、また、「自戒」、「職員行動訓」など、法人として目指す方向性や職員像を示している。認知症介護に理解のある協力医院と密な連携が図られており、医療面の充実が図られ、看とりも行われている。ホームの2階には和室や風呂、キッチンも備えてあり、家族が宿泊することができるようになっている。入居者の思いを尊重し、その人のペースで生活できるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議を活用して、継続して地域に向けての理解促進を図ったり、物品の置き場を工夫して活動しやすい環境づくりを心がけるなどしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者が一人で行い、全員が目を通し、確認した。今回の外部評価実施後は、職員で話し合いを持ち、更なる質の向上のためのきっかけにしたいと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバーは入居者、家族会会長、自治会長、民生委員、市役所職員、法人代表者、ホームの管理者、計画作成担当で構成されている。入居者の近況や地域の情報、グループホームをより理解していただくための討議等を行っている。寄せられた意見をより活かすための取り組みを検討している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月の利用料支払いを家族の訪問の機会としても活かし、その際に近況報告をしたり、介護計画の同意をいただいたり、家族との情報交換を行っている。ホーム単独での広報誌は作成していないが、法人の広報誌にグループホームの情報も掲載している。家族会があり、会長に運営推進会議に出席していただいている。重要事項説明書にホームの苦情解決担当者を明記しており、苦情解決のための第三者委員もおいている。ホーム玄関に目安箱を設置している。今までに苦情等は寄せられていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所の周りには民家がほとんどなく、隣近所との日常的なつきあい、ということは難しい立地であるが、ミニチュアホースを見に訪れる人や、ホームを訪ねてくれる人、地元の小学校、中学生徒との交流などを行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の意思を尊重し、その人らしい生活ができる環境づくりを目指し、理念、自戒、職員行動訓などを掲げている。	○	開設から5年、新たな展開が期待される時期で、入居者、家族、地域の意見を職員とともに集約し、地域での安心した暮らしを支えるホーム独自の理念を構築していくことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念に掲げられた「長寿」を実現するために職員間で日々意見交換を行い、ケアの質の確保に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周りには民家がほとんどなく、隣近所との日常的なつきあい、ということは難しい面もあるが、運営推進会議に自治会長、民生委員に参加していただき、理解を深める方法を話し合っている。小・中学校との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心として改善できた部分と、不十分なものがあり、評価を活用しきれていないと考えている。	○	この機会に、自己評価、外部評価を照らし合わせて改善点の明確化を図りたいと考えているので、職員全員で取り組みながら意識あわせや更に向上市ていくための話し合いを活かしていくことに期待したい。

グループホームほたる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは入居者、家族会会長、自治会長、民生委員、市担当職員、ホームの管理者、計画作成担当者、法人代表者となっている。運営推進会議が地域との接点となっており、活発な意見交換がされている。寄せられた意見を、より活かすための取り組みを検討している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	同法人の特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどと合同で行事を行うことで市の担当者と接する機会を設けたり、これまで法人に頼っていた市との事務的な事柄を管理者が自分で行うなどして市役所担当者と接する機会を増やしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時に管理者や職員が近況報告や今後の相談をしたり、介護計画の同意をいただいたりしている。管理者のみでなく、各職員が家族と接する機会を持つことで、責任感を持った介護に繋がると考えている。毎月の利用料支払いを家族の訪問の機会としても活かしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情解決担当者を明示し、苦情解決のための第三者委員もおいている。家族から伺った意見や情報は、職員間で協議し、運営に反映させている。家族会があり会長に運営推進会議に参加していただいている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が変わることの弊害を理解し、異動時には入居者が混乱しないように徐々に説明している。その中で入居者から送別会開催の提案があり、全員でカラオケに行ったり、花を贈ったりしている。		

グループホームほたる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を掲示するとともに、職員の経験等に応じて参加を促している。勤務調整をして参加しやすいように配慮している。研修参加後は、会議の際に報告する機会を設け、職員間での共有を図っている。	○	現在、職員に欠員が生じており研修参加の調整が難しいと思われるが、今後も必要な研修を受講できるよう検討していくことを期待したい。また、会議のあり方についても、再度検討することを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のグループホームとの交流はある。管理者同士の他のグループホームとの交流は行われている。	○	市内でも歴史のあるホームの立場を活かして、他のグループホームとの勉強会や相互訪問など、ネットワークを更に充実させていくことにも期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約後に一定期間の利用の中で自宅への「外泊」を繰り返し、徐々に外泊を減らしていき、少しずつホームの生活に慣れていただくといった配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できることは自分でしていただき、様子を見守っている。職員の対応方法については、その都度互いに声をかけ合い、ケアの質を保つように努めている。管理者は、更に意識の統一を図りたいと思っている。		

グループホームほたる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向は、入居前のモニタリングや入居後に生活をともにする中で把握している。入居者の生活様式を踏まえ、希望や意向に沿えるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	連絡帳を活用して日々の気づきを活かしながら、入居者、家族、かかりつけ医と相談し、職員にとっても最良な方法を検討し、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間設定は半年から1年で、状態変化時には家族や関係者と協議して見直しを行っている。	○	設定期間内であっても、月1回の家族との話し合いの中から、微調整を行うような仕組みの検討も期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な外出、病院受診のための食事時間の調整、予定より早く外出から帰った方の食事の準備等、入居者、家族の希望にそった柔軟な支援をしている。		

グループホームほたる


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院と総合病院への通院は職員が付き添い、かかりつけ医のある方はそちらを優先して家族に付き添っていただいている。協力医院やかかりつけ医とは情報交換を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。医療的なことを書く「連絡帳」により、職員間の情報の共有が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	以前から看取りをしており、家族、医師、職員で話し合いを持ち、方向性を確認している。終末期には、今後の方向性を確認し、頻回な話し合いにより情報の共有化を図っている。	○	今後、看取りの意思確認書や指針などを文書化することを期待したい。また、医療依存度が増すことも考慮して訪問看護や併設の特別養護老人ホームとの連携など医療の処置への対応体制についても検討していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを守るために、職員は日々の支援の中でお互いの言葉かけや対応をチェックし合い、管理者もそれを点検している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の生活の流れはあるが、共同生活を逸脱しない範囲で入居者のペースを尊重した「一日の生活パターン」を設定して支援している。午前中ほとんど寝ていて食事の回数が減っても、食事のために無理に起こすことなく栄養摂取状態に注意しながら、希望通りの生活を送っていただいている。		

グループホームほたる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者には、誘導ではなく自発的に食事の準備、後片付け等に参加していただいている。入居者の身体機能等の低下により、支援内容も変化してきている。	○	入居者一人ひとりの力量を再検証することによって、少しでも「参加できる場面」づくりを検討することに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は14時から17時を目安に入浴の支援をしている。入浴の苦手な方でも、衛生面に注意を払いながら機嫌の良いときを見はからって声をかけたりして入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	把握した生活歴などを基に、家事等の役割を担っていただいている。天気の良い日は、ゴミ出しを兼ねた散歩から一日が始まり、買い物やテレビ観賞などを行っている。	○	動物の世話など楽しさを増やしたいと考えているので取り組みに期待したい。また、張りのある生活の支援という意味で、参加したがい方にも無理にということではなく参加してもらえる工夫も重ねていくことを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回の外出、要望時の買い物等、外出の機会を設けている。入居者の重度化に伴い、外出の機会の減少もあり、買い物は外出時希望者だけ別行動したりして、希望に添えるよう工夫している。徘徊傾向の方を中心に、午前中散歩に誘い、外の空気に触れていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は、常時開錠していた。現在は、徘徊する方、帰宅願望の強い方がおり、状態を見て施錠しているが、心配のない入居者には、外で過ごしていただいている。	○	施錠の回数を減らして以前のように常時開放したいと考えているので、敷地内の併設施設とも連携しながら安全対策を検討するなどして、より自由な生活を支えていくことを期待したい。

グループホームほたる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携して年2回の避難訓練を行っている。地域の方には、運営推進会議を通して協力をお願いしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量をチェックし、必要量摂取できるように配慮している。重度化が進み、入居者との買い物が難しくなり、食材を業者から購入している。栄養価も表示されているので、栄養摂取状況の把握が容易にできるようになった。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	訪問時、テレビの音や職員の声かけも静かで穏やかであった。屋内はきれいに清掃され、壁に掛けられた版画や絵画が落ち着いた雰囲気をつくっていた。認知症の周辺症状による混乱につながる物を置かないようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持込は自由で、ドレッサーや机など入居者にあわせて使い慣れたもの、好みの品、必要なものを持って来ていただいている。居心地良く、安全に生活できるような居室づくりの支援をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。